

「第1回合同研修会」

4月16日(火)に第1回合同研修会を開催しました。今年度から2年間、文部科学省「道徳教育の根本的改善・充実に係る支援事業」「平成31年度道徳教育改善・充実」総合対策事業を受け、吉舎小学校を推進地域センター校として、道徳教育を推進するための実践研究を行っていきます。

第1回目は、三次市教育委員会 一山課 付係長より、「道徳教育改善・充実」総合対策についての説明をして頂きました。

1 事業の趣旨

小中学校の学習指導要領の一部改正等において、従来の「道徳の時間」を「特別の教科 道徳」とし、「考え、議論する道徳」へと質的転換を図る。そのための教員の指導力向上、家庭地域との連携強化などの地域の特色を生かした取組を推進する実践研究を行い、本県の道徳教育の一層の充実に図る。

2 事業の目的のポイント

校内に留まらず、小・中学校の発達段階や地域等の実情に応じた系統的な指導ができる。

3 吉舎中学校区の研究の方向性

(1) 道徳性の発達段階の違いによる道徳的葛藤を生かした討議(対話)の成立を図る道徳授業の創造。

(2) 地域学習等の体験活動と各教科、「総合的な学習の時間」、特別活動に関連付けた総合単元的道徳学習の実践。

- ・道徳学習プログラム「吉(よ)き舎(やど)り」プログラムの作成。

*ポイント

- ・課題の把握 (R) →作成 (P) →実践

(D) →評価 (C) →改善 (A)

- ・2年間で吉舎の子ども達にとってよりよいプログラムの編制・実施

(3) 保育所、小学校、中学校、高等学校を貫く「吉舎できさの子どもを育てる」特色のある教育活動の創造

*ポイント

- ・これまでの吉舎中学校区の取組を充実・深化させることができる。その後、道徳科授業の匠、小原先生より、今年度の吉舎学区の道徳教育推進に関わっての説明をして頂きました。
- ・押しつけの道徳にならないためには、子どもから学ぶ姿勢が必要。
- ・物語のオープンエンドはあるが、価値に対するオープンエンドはない。
- ・教材の中心をどこにするのか、手法と方法はどうするのか事前打ち合わせが大切。
- ・道徳科の目標を「よりよく生きるための基盤となる道徳性を養う」としている。この道徳性を構成する諸要素である道徳的判断力、道徳的心情、道徳的実践意欲と態度を養う事を求めている。これらは内面的資質であり、評価できない。しかし、評価しなければならない。
- ・学習活動において生徒が道徳的価値や諸事象について他者の考え方や議論に触れ自律的に思考する中で、多面的・多角的な見方へと発展しているか、自分自身との関わりの中で深めているかなどの点を重視することが重要である。
- ・道徳の時間を、楽しんでください。